

第3期計画 基本目標

【事業の視点で整理】

1. おもいやり・支えあいで 安心して暮らせるまちづくり
2. さまざまなサービスが 利用しやすい仕組みづくり
3. 誰もが地域活動に 参加するまちづくり



各主体が地域福祉について共通認識のもと、連携・協力しながらそれぞれの役割を果たすことができるよう、わかりやすい計画体系・内容に見直し。

第4期計画 基本目標（案）

【社会の流れ、課題毎の視点で整理】

1. 人がつながり、支え合うまちづくり
2. 暮らしやすいまちづくり
3. いきいきと活躍できるまちづくり
4. 安全で安心なまちづくり

第4期計画 体系整理

大きな社会の流れ

課題（市民の不安等）

解決の考え方

基本目標（案）

- 少子高齢化、人口減少
- 核家族化、独居高齢者等の増加
- 地縁関係の希薄化
- 若者の流出

- ・地域活動の持続性について不安を感じる人が増えている。
- ・家庭、地域での困りごとの解決が困難となっている。
- ・地域の間関係の希薄化、孤独化がすすみ、家族や地域での支え合いが、従来のように機能しなくなってきている。
- ・子育ての悩みなど、様々な悩みを抱え相談できない人が増えている。
- ・働く世代の減少により、担い手不足の課題が顕在化している。

日常生活における不安を相談できたり、互いの変化を気づきあえる人間関係が身近にあるなど、子育てや介護などの支援を、家族や地域で支え合うことが大切である。
また、人や福祉サービスをつなぐ相談支援体制の充実や地域の福祉を支えていく担い手づくりが大切である。

目標1
人がつながり、支え合うまちづくり

- 経済的不安を抱える人の増加

- ・非正規雇用や様々な理由から働くことができず、経済的に不安を抱える人が増加しており、このような人をどのように支援していくのが課題となっている。

- 社会問題の複雑化

- ・ひきこもり、8050問題、障がい者の親亡き後の生活、育児と介護のダブルケアなど、様々な分野の課題が絡み合って複雑化してきており、解決が難しくなっている。

- 判断能力等に不安を抱える人の増加

- ・認知症高齢者の増加や障がい者の親亡き後の生活など、今後、判断能力等に不安を抱える人の権利をどのように擁護し、生活を支えていくのが課題となっている。
- ・高齢者、障がい者、子どもへの虐待、DVなど、弱い立場の人の尊厳を傷つける様々な虐待や家庭内暴力が発生しており、その解決や防止策が課題となっている。

様々な事情によって困難を抱える人に対し、それぞれに合った支援を行い、暮らしやすいまちにしていくことが大切である。

目標2
暮らしやすいまちづくり

- 多様性社会への対応

- ・社会の多様化がすすんでいるなか、その多様性を地域社会においてどう受け入れていくのが課題となっている。

- 超長寿社会の到来

- ・超長寿社会において、高齢者がどのように生活し、社会に関わっていくのが課題となっている。

年齢や性別、障がいの有無等に関係なく、自身の健康を保ちながら生きがいを持って地域社会で活躍していくことが大切である。

目標3
いきいきと活躍できるまちづくり

- 治安や交通安全への意識の高まり

- ・悲惨な事件や交通事故が後を絶たず、治安や交通安全をどのように維持していくのが課題となっている。

- 差別のない社会の実現

- ・人権意識の向上やユニバーサルデザインの推進など、差別のない社会の実現への更なる取り組みが必要である。

- 自然災害の多発

- ・経験したことのないような自然災害が多発するなか、どのように市民が安全に避難し、避難生活を送れる体制を整えていくのが課題となっている。

心のバリアフリーやユニバーサルデザインを推進するとともに、普段から、地域の交通安全や防犯、災害発生時の体制を整えて、安全で安心して暮らせるまちをつくるのが大切である。

目標4
安全で安心なまちづくり